

日本ボクシング連盟 公益法人化プロジェクト2020スタート！

選手の為に、競技に関わる人の為に、
ボクシングで世の中に貢献する為に。
日本ボクシング連盟は全力で公益法人を目指します！！

2018年9月に現体制発足と同時に、公益法人化を目指してまいりましたが、それはわれわれが想像していた以上に困難な道のりでした。

これまでの運営を考えれば、致し方ないことではありますが、道は険しくとも、日本ボクシングの未来の為に、必ず公益法人化を実現させる所存です。

これから改めてわれわれの活動を包み隠さず情報提供させていただくとともに、多くの方々よりご意見を取り入れていただきながら、日本ボクシング連盟公益法人化プロジェクトをスタート致します。

公益法人化Q&A

Q-1 公益法人とは何ですか？

A 日本ボクシング連盟は現在、一般社団法人です。公益法人とは公共の利益（公益）を目的とする団体内閣府によって認定されます。認定されるには、厳しい条件をクリアしなければなりません。社会的信頼を得、税制上の優遇措置を受けることが出来ます。

Q-2 なぜ公益法人化しなければならないのですか？

A スポーツ競技団体は選手や競技に関わる人の為に、そして競技で世の中に貢献する為に存在すると考えられます。そのため、健全で安定した、未来に繋がる運営が求められているからです。

Q-3 他の競技団体は公益法人ですか？

A 現在、国内のオリンピック競技団体のうち公益法人でないのはわずかに1割程度しかありません。ほとんどの団体は公共的な競技団体として認められていますが、ボクシングは未だ公益性の認定を受けていない状況です。

Q-4 公益法人化しないとうなるのですか？

A 公益性がないとみなされるため、公的資金補助の減額や、企業や個人からの支援や寄付が集まりにくい状態が継続します。また、団体競技として周年開催に陥っていますが、毎年開催への復帰も困難であることが予想されます。その結果、わが国におけるアマチュアボクシングが衰退するおそれがあります。

Q-5 公益法人化は難しいのですか？

A ハードルが非常に高いです。一度是分された組織ですので、公益性の標榜を明確に示し、不正を許さない自助努力が必須です。

Q-6 公益法人化のために何が必要ですか？

A 透明性の高い、開かれた競技団体運営が必要です。競技団体の一部の人の為ではなく、選手、競技関係者、世の中の人々へ貢献する為の活動が求められます。組織を運営する理事委員会が一致団結して全力で取り組んでいかなければなりません。

Q-7 公益法人化すると日本ボクシング連盟はどのように変わりますか？

A 選手には夢を、競技関係者には誇りを持てるような大会を今まで以上に運営することが出来ます。その結果、世の中に感動や健康を提供し、ボクシングというスポーツの価値を高めることになるでしょう。是非、ご期待ください。

日本ボクシング連盟第13代会長 内田貞信の公約

1 社会的信頼の回復のため、 公益法人化を目指します

残念ながら、前体制下における非運営の運営体制は、とても社会的に許容されるものではありませんでした。その予断は、公益法人化の大きな課題の一つです。公益法人化は、社会的信頼の回復、自他への負の連鎖が払拭されたことへの第一歩です。運営が正しいと認められなければ、必要不可欠なことです。

- 公益法人認定を得ることは、まさに国から、国民から、信頼するに値すると大賛同を仰されることへの第一歩です。公益法人化は、社会的信頼の回復、自他への負の連鎖が払拭されたことへの第一歩です。運営が正しいと認められなければ、必要不可欠なことです。
- 日本ボクシング連盟のような中央競技団体の運営には、多くの公的資金が導入されています。そのため、スポーツを通じて世の中に貢献することが求められます。実際に、多くの競技団体は公益社団法人として運営を行っています。つまり、公益法人化は、国内中央競技団体としての責務を果たすために必要不可欠です。

公益性の高い組織であると社会的に認められる事により、公的資金による補助の増額、企業からの支援、寄付の増加など、様々な利益を享受することができるようになります。つまり連盟の健全な運営を定立せねばならぬ、必要不可欠です。

しかしながら、一度是分を受けた団体が、「公共のために活動する組織」であることを証明する必要があります。公益性の標榜を明確にして、開かれた組織運営を行い、その継続性を示す必要があります。非常に困難な目標ではありますが、社会に対する責任を果たすために、信用の回復を得るため、公益法人化を必ず成し遂げます。

2 間違いを指摘しあえる、 責任のある組織運営を行います

当連盟での事例もそうですが、近年、様々な国内中央競技団体による、「スポーツの価値」を毀損するようないびつな動きが起っています。その原因は、

- スポーツを愛する人々の、ボクシング精神に定着した組織運営がほとんどであるため、「運営責任の所在が曖昧」になりがちなこと。
- 競技に関わる、身内のみに関り切った組織運営がなされた結果、法令遵守よりも、特に、債権や人間関係に配慮した「社会的に間違った判断がなされる」ことがある、という問題が顕著とされています。当連盟でも、同様の状況で、同様の状況だったのではないのでしょうか。

本来、組織の運営責任を担う理事一人一人が、自浄努力を怠らぬ事により、「間違いを指摘する非運営の悪い」は継続的に、取り除かれていきました。正しい運営において、社会的信頼を回復させるためには、これができてくるとこそ初めて、正しい組織運営を続ける必要があります。それは「間違いを指摘しあえる、すなわち自浄作用を持つ」必要があります。そういった組織運営の道徳となるのが、スポーツ庁が策定した「ガバナンスコード」です。我々は、このガバナンスコードに適合した組織運営を行います。

ガバナンスコードは、2019年に策定された、スポーツに関わる団体を正しく導くための基準です。当連盟のような中央競技団体は、ガバナンスコードに即った運営を通じて、日本国民に夢と感動を伝える、健康を促進し、社会貢献を促進し、社会貢献を行うという「スポーツの価値」を国民に伝えていくことが要求されています。我々は、この責任に誇り、固に示された、国民が求める、間違いを継続しあえる、竹度しあわぬ、責任のある組織運営を行います。

3 自己財源を確保し、 選手や関わる人が夢を持てる競技にします

日本国内の競技団体は、一部の人気スポーツを除き、予算不足に陥っています。それに陥れば、日本ボクシング連盟の財政も非常に苦しい状況です。現状、競技の普及や、トップアスリートの強化に十分な費用をかけるどころか、連盟の運営そのものもボランティアに依存し、非常に不安定な状況です。先述の「公益法人化」により、公的資金補助の増額や、企業からの寄付を助ける事もありますが、自己財源確保のための自主活動が必須です。そこで、日本ボクシング連盟は、ボクシングの動きを取り入れた、有料動画配信（トレーニングメニュー）提供の企画である、「グラウンドプロジェクト」を推進します。この企画を成功させる事で、競技団体として安定した予算確保が可能になれば、連盟の運営や選手の強化を安定化させることができます。

また、中央競技団体には、一部の「競技愛好家」を巻きこめるだけの団体運営ではなく、競技を通じて、日本国民を健康にして、幸せにする、スポーツの価値を伝えることが求められています。この「グラウンドプロジェクト」は、ボクシングを通じて、日本国民を健康に、幸せにするための、国や国民のニーズに応じた企画です。また、企画を通じてボクシングの魅力を伝えることも一つの目的です。これは競技人口の拡大にも繋がります。自己財源確保と国民団体としての使命を両立させるために、この企画を成功させます。自己財源確保と国民団体としての使命を両立させるために、この企画を成功させます。

4 団体を隔年から毎年開催に長します

アマチュアボクシング界が社会的信頼を失ったのは構を同じくして、国内における「ボクシング競技」が、周年開催となりました。これは、日本スポーツ協会が発表する、団体競技選定ランキングが41競技中41位、つまり「最下位」まで落ち込んでしまったことの結果です（39期競技が周年開催、下位2競技が隔年開催）。もちろんこれは社会的信頼低下を導くシンボルではありませんが、国民の社会的ニーズを無視した、勝手な運営の結果です。このままでは、ボクシング競技は、日本国民のニーズとずれていってしまう。団体競技から外れ、衰退の一途を辿る可能性がります。周年開催は、選手の活躍の場の減少のみならず、競技者に対する最終選考であり、我々それを真摯に受け止め、迅速に対応しなければなりません。

今後、周年開催に際し、日本国民にボクシング競技の魅力を広げ、広く観んでもらうためには、世の中のニーズに応じた、「健全な運営」、「幅広い世代への普及の推進」、「女子競技の充実」、「積極的なファンレターとSNS活動」などを行う必要があります。我々は、日本国民が望み、頼み、楽しみにするボクシング競技を目指し、団体の周年開催を、必ず取り戻します。